



美を競う 肉筆浮世絵の世界
 光ミュージアム珠玉の名品コレクション一挙公開

と き／4月27日(土)～6月9日(日) 10:00AM～6:00PM
 ところ／京都文化博物館 (5/6以外の月曜日と5/7休館)
 京都市中京区三条高倉 ☎075-222-0888

鮮やかな色彩で摺られた版画のイメージが強い浮世絵ですが、肉筆画は量産される錦絵の版画と違い、浮世絵師が絹本・紙本に直接描く一点物。本展では貴重な肉筆画を、美人画を中心に約110点を展示。絵師の手によって華麗な衣装の文様まで精緻に描かれた、濃密で、優美な浮世絵の世界を楽しむことができます。国内でも有数の肉筆浮世絵コレクションを擁する、岐阜県高山市の光ミュージアム所蔵の珠玉の名品は今まで一挙公開される機会がなかったため、本展が初の大規模公開となります。



祇園井特 「紐を結ぶ女」
 月岡雪鼎 「遊女」
 宮川長春 「立ち美人」



友情が生んだ珠玉の川勝コレクション
鐘溪窯 陶工・河井寛次郎

と き／4月26日(金)～6月2日(日) 9:30AM～5:00PM
 ところ／京都国立近代美術館 (5/6以外の月曜日と5/7休館)
 京都市左京区岡崎公園内 ☎075-761-4111

京都国立近代美術館は、近代日本を代表する陶工・河井寛次郎作品(川勝コレクション)を所蔵しています。計425点にも上る川勝コレクションは、質、量ともに最も充実したパブリック・コレクションで、初期から最晩年にいたるまでの河井の代表的な陶芸作品を網羅した河井芸術の全貌を物語る「年代作品字引」となっています。本展では、川勝コレクションの中から河井寛次郎作品の名品約250点を一堂に展示すると共に、当館所蔵の河井と交遊関係のあった濱田庄司、バーナード・リーチ、富本憲吉らの作品を併せて紹介します。(金曜・土曜：夜間開館午後8時まで)

河井寛次郎
 《三彩双魚文瓶子》
 1922(大正11)年
 京都国立近代美術館蔵

超絶技法を超えて
吉村芳生「これ、鉛筆画です」

と き／5月11日(土)～6月2日(日) 10:00AM～8:00PM
 ところ／美術館「えき」KYOTO (会期中無休)
 JR京都駅ビル JR京都伊勢丹7階隣接 ☎075-352-1111

超絶技法? そんな単純な言葉で説明することはできません。一年間毎日描き続けた365枚の自画像、一文字一文字をすべて書き写した新聞紙、10メートルの色鉛筆画一。吉村芳生が生み出した作品は、どれも超絶リアルでありながら、見る者の度肝を抜く凄みを感じさせます。1950年に山口県に生まれた吉村が一躍注目を浴びたのは2007年、「六本木クロッシング2007」(森美術館)に出品された作品が大きな話題となり、突如現代アートシーンの寵児となった。2013年に惜しまれつつ早世した吉村芳生の、ただ上手いだけの絵ではない、描くこと、生きることを意味を問いただす真摯な作品の数々を、初期のモノトーンによる版画やドローイング、後期の色鮮やかな花の作品、そして生涯描き続けた自画像などにより実見していただきたいのです。



「新聞と自画像、2008.6.15 中国新聞」
 2008年、えんびつ、色鉛筆、水性ペン、墨、水彩・紙

会場	日曜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
京都府 京都文化博物館 中京区高倉通三条上ル 222-0888	2F	祇園祭 - 函谷鈴の名宝 -																														
	3F	太田喜二郎と藤井厚二 - 日本の光を追い求めた画家と建築家 -																														
	4F	光ミュージアム所蔵 美を競う「肉筆浮世絵の世界」																														
	5F	第24回 雪秀会能面展										第39回 辛酉会 書展										龍門社 第79回 書展					あそ美心 ふろしき・ ファッション 展示会					
	6F	博いの京 会館の笑 之会笑																														
別館	KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2019 "VIBE"															音楽 会				音楽 会				音楽 会				音楽 会				
京都学・歴彩館 左京区下鴨半木町1-29 723-4831	「対展」ギャラリートーク：5月29日(水) (休館日：祝日、第2水曜日：5月1日(水)～5月4日(土)、5月6日(月)、5月8日(水)、)																															

こんどは来れた

第2弾一野見山暁治展

と き / 4月30日(火)～5月12日(日) 12:00～7:00PM
と ころ / ギャラリー・ヒルゲート (5/6(月)休廊)
京都市中京区寺町三条上ル ☎075-231-3702

2007年以来4度目の野見山暁治展を開かせていただきます。

昨年末、表参道の画廊での個展最終日にお目にかかった折、先生はニコニコとワインを召し上がり、とてもお元気そうでした。その翌日に肺炎で入院されたことを2月の朝日新聞連載で知ってびっくり。しかもその時には既に回復して、新作を描いて下さっていると知って更にびっくり。

尽きることのない“自由”は精神だけでなく、肉体にも宿っているのかもしれない。

今回は、新作の版画・ドローイングの他、近作の油彩・水彩もまじえて、約50点を展示いたします。どうぞ御高覧下さいませ。(ギャラリーヒルゲート)

野見山 暁治 (NOMIYAMA Gyoji)

1920年福岡県生まれ。38年上京し、東京美術学校油画科予科に入学。

本科2年生の頃から“池袋モンパルナス”と呼ばれたアトリエ村に暮ら

し、フォーヴィズムの絵画に傾倒。43年東京美術学校油画科卒業。

応召の後病を患い、45年福岡の療養所で終戦を迎える。

48年病気が治り再び上京。自由美術家協会展で受賞し会員となる。

52年渡仏。58年安井賞受賞。64年帰国。無所属となる。

68年東京藝術大学助教授(72年教授)に就任(81年辞職)。

78年『四百字のデッサン』で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。

92年芸術選奨文部大臣賞受賞、94年福岡県文化賞受賞、96年毎日芸術賞受賞。

2000年文化功労者顕彰。全国の戦没画学生遺作を窪島誠一郎氏とともに収集、

それらを展示保存する「無言館」(長野県上田市97年設立)にも尽力した。

2014年文化勲章受章。現在、月刊誌「美術の窓」にて「アトリエ日記」を連載中。



「身近な空」

◆夜話市民講座 Bコース

野見山 暁治 (画家)「何でも聞いてください」

5月4日(土) 18:00～19:30 ギャラリー1F

参加費1,000円(学生500円) 定員40人 要予約



「約束の日」

叶具夫 陶展「流れる光、降る光」

と き / 4月26日(金)～5月8日(水) 9:30AM～5:00PM

と ころ / 京都陶磁器会館 (木曜休館) 京都市東山区東山五条上ル ☎075-541-1102

叶具夫さんは、京焼の技法をもとに、あたたかみのある独自の磁器を制作されています。

ろくろや型を用いてつくられた青白磁の器は、かしまりすぎないかたちに手が加えられ、凛とした風貌の中にどこかやわらかさを内包しています。また白磁や黒釉の器に踊る水玉や縞の文様は、京焼の上絵付の豊かな色彩を大切に、叶さん独特の手法や感覚で描かれています。

初夏を前にした爽やかな光に映える、色やかたちのリズムをお楽しみ下さい。

叶 具夫 (かのう・ともお) 陶歴

1977年 三代叶松谷の二男として生まれる

2000年 同志社大学商学部卒業

2003年 京都市工業試験場窯業科陶磁器コース本科修了

三代叶松谷に師事

2008年 「同志社大学クラーク記念館(重文)」修復工事に伴い、

洗礼盤、聖餐台・講演台レリーフ制作

2010年 高島屋京都店美術工芸サロンにて個展(2013年開催)

2013年 京焼の用と美/ケルン・ドイツ

2014年 京焼歴代展 一継承と展開一/

京都市美術館

2016年 「京もの認定工芸士」となる

2017年 高島屋京都店美術画廊にて個展

2018年 京都伝統陶芸家協会二俊会展/

白沙村荘 橋本関雪記念館



「飛泉」

高橋康治 陶展 ～geometry～

と き / 5月10日(金)～5月22日(水) 9:30AM～5:00PM

と ころ / 京都陶磁器会館 (木曜休館) 京都市東山区東山五条上ル ☎075-541-1102

高橋康治さんの作品は、直線的なフォルムと、円の重なりによる奥ゆきのある細部が魅力的です。geometryシリーズは、板状の土に穴をあけたものを幾層にも重ねて成形されます。その穴のあけ方は綿密に計算され、円同士の間で複雑な模様のような構造が現れます。特にフォルムの稜線付近は、円の要素に直線の要素が加わることでより複雑になり、全体のフォルムと細部の構造との関係を強固にしています。また、炭化焼成による変化に富んだ色調は、幾何学形態に有機的で力強い表情を与えます。

本展では、大作を中心に展覧いたします。“geometry”—幾何学的な作品の世界をお楽しみ下さいませ。

高橋康治 (たかはし・こうじ) 陶歴

1986年 京都府に生まれる

2009年 京都精華大学 陶芸専攻 卒業

2011年 同大学大学院 芸術研究科 修了

個展

MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w (2011) パレス

サイドホテル (2011)

グループ展

日中韓合同陶芸展 (2009) 長谷川裕子+16人のアンサンブル展

(2011)

未来風景展 (2012年)

創工会新進作家展 (2015)

他多数

公募展

国際陶磁器フェスティ

バル美濃 入選 (2011)

わん・碗・ONE展～次代

を担う若者の作品展～

京都陶磁器協会賞 (2018)



「geometry II」

[今月の展覧会より]

没後10年・ロニスの愛したパリ WILLY RONIS展

と き / 4月11日(木)～6月23日(日) 10:00AM～6:00PM
と ころ / 何必館・京都現代美術館 (月曜休館 但し4/29、5/6は開館)
京都市東山区祇園町北側271 ☎075-525-1311

このたび「没後10年・ロニスの愛したパリ WILLY RONIS 展」を開催いたします。

ウイリー・ロニス (1910-2009) は、アンリ・カルティエ＝ブレッソン、ロベール・ドアノーと共にフランスが生んだ世界的な写真家です。

パリに生まれたロニスは音楽家を志しますが、父の写真館を継ぐ形で写真の世界に入ります。そこからロニスは写真家として才能を発揮し、優れたルポルタージュ作品をはじめ、広告、ファッションなど、多方面に渡って活躍しました。まさに20世紀の証人ともいえるロニスですが、その中でも身の周りにある、ふとした日常の時間を切り取った写真には独自のユーモアと温かさが光ります。



「バスターユの恋人」1957年



「ホンダメンタ・ヌオーヴェ、ヴェニス」
1959年



「小さなパリジャン」
1952年

ウイリー・ロニスは「写真家はときめきを持って美しい恋人を待っているようだ」と語り、新鮮な眼差しを持って、街の情景や暮らしを写した20世紀のパリ。その一瞬が永遠となり、色褪せることなく人々の心に寄り添い、今を生きる私たちに豊かな心と大きな感動を与えてくれます。

本展では、ロニスが生涯をかけて撮影したパリの日常に焦点を当て、何必館コレクションの中から厳選されたサイン入りオリジナルプリント約60点を展覧いたします。

○記念出版「ウイリー・ロニス写真集」 3,500円

深田充夫 ペン画展 ゼブラニャンニャンパラダイス

と き / 4月30日(火)～5月12日(日) 11:00AM～7:00PM
と ころ / アートギャラリー博宝堂 (月曜休廊 最終日は午後5時まで)
京都市左京区岡崎神宮道東側 ☎075-771-9401

彫刻家深田充夫先生は、日頃精力的に野外彫刻作品を制作し、その作品の設置場所は国内外問わず広範囲で、拝観ツアーをお願いしたいと申し上げたくらいです。

いつもはそのような立体的志向の頭脳の先生ですが、今回ペン画の作品展を開催させて戴きます。彫刻家の描かれる平面作品に、とっても興味が湧いてきませんか？ 深田先生の愛らしい「ゼブラニャンニャン」は先生の頭の中で生まれたオリジナルキャラクターとして、いろいろな表情を見せてくれます。今回も新作が登場するのが楽しみです。

是非ご高覧頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

アートギャラリー博宝堂

深田充夫略歴

- 1956 滋賀県に生まれる
 - 1978 京都精華短期大学立体造形専攻科卒業
 - 1978 京展 '78 市長賞 / 京都市美術館
 - 1981 第2回ヘンリー・ムーア大賞展 優秀賞受賞
 - 1983 第10回現代日本彫刻展 / 山口県
 - 1983 第3回ヘンリー・ムーア大賞展 美ヶ原高原美術館賞受賞
 - 1993 第1回フジサンケイ・ビエンナーレ現代国際彫刻展 特別優秀賞受賞
 - 1996 彩の国さいたま彫刻バラエティ '96 大賞受賞
 - 2000 丸の内仲通り彫刻展 / 東京都
 - 2002 紺綬褒章授章、第3回世界水フォーラム参加
 - 2003 京都造形芸術大学 美術工芸学科彫刻コース 非常勤講師 (～09年3月)
 - 2004 第8回KAJIMA彫刻コンクール 金賞受賞
 - 2005 京展 05 京展賞受賞 / 京都府
 - 2005 北京オリンピック彫刻デザインコンクール '05 Nomination Award 受賞 / 中国
 - 2012 第22回AACA賞 優秀賞受賞 / 社団法人 日本建築美術工芸協会
 - 2013 彫刻家 深田充夫展 石、水と大地 併催 穴太衆石積コロキウムを開催 / ドイツ
 - 2014 第15回世界湖沼会議参加 (ペン画) / イタリア
 - 2014 第19回瓦・造形展 招待出品 / 東京国立新美術館
 - 2016 滋賀県文化賞受賞
- 他、個展、受賞、モニュメント設置など多数



「世界旅行一行ってきます」



「ゼブラニャンニャンパラダイス」



「負けないぞ」

西久松吉雄展 一風景のはじまり

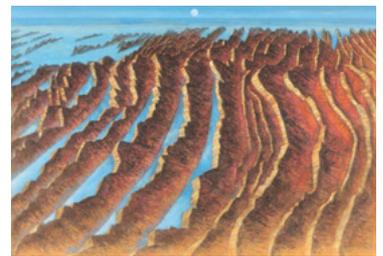
と き / 5月7日(火)~19日(日) 11:30AM~6:30PM
ところ / ギャラリー create 洛 (月曜休廊 最終日午後5時まで)
京都市中京区丸太町通堺町角 ☎075-708-7898

この度、日本画家・西久松吉雄先生の個展を開催します。壮大な自然の世界観をお楽しみ下さい。
自然のかたち

口丹波地域の春秋の季節は、特に朝霧が続き幽玄な山水画の世界を魅せてくれる。山に囲まれた亀岡盆地は、地下水も豊富で酒蔵や醤油蔵などがある町並みと田園地帯と住宅街である。京野菜のすずきなども畑の風景になっている。田畑のあぜ道にある木々に積みわらのある風情も今は見かけることがなくなった。

2018年9月の台風の暴風と大雨による倒木の被害もあり、特にご神木や保津峡の杉林は大変なことになっている。異常気象、火山活動、プレート移動による地震など、日本列島の出来事は気にかかる状況である。日常の中で気にとめる風景のかたちがある。広域な視界の中に象徴的に見える杜や古墳のある風景、地と水の風景、その地域に残存する地学風景がある。また、人の営みによる町並みや民俗的、歴史的、地理的などところから生まれた日本文化や東アジアの端に位置する古代からの文化の交流の道が垣間見える風景にも興味がある。

日本列島の誕生は自然豊かな地形が生まれ、大陸との位置関係によって日本の文化と美術工芸、そして風土とその歴史がある。そして深い思想観がある。その風景の記憶を作品に残せたらと思う。
(西久松吉雄)



西久松吉雄 略歴

1952年 京都に生まれる
1976年 京都市立芸術大学美術学部日本画科卒業
1979年 京都市立芸術大学美術専攻科日本画専攻修了
現在 成安造形大学名誉教授
成安造形大学附属近江学研究所長
一般社団法人創画会常務理事
京都日本画家協会理事

e.g.g.o 0069 幸山ひかり展 「花、燃えて土になる」

と き / 5月9日(木)~5月18日(土) 10:00AM~6:00PM
ところ / 大雅堂 1F展示室 (会期中無休)
京都市東山区祇園町北側301-2 ☎075-541-7388

このたび、上記の展覧会を開催する運びとなりました。幸山先生は花と土を通して、この世の煌めき、儚さを表現しています。弊画廊にて初の個展となりますこの機会にぜひご高覧ください。

〈展覧会に向けた作家のコメント〉

私はこれまで、花を描くことを通して、この世界の長い長い時間の中に点として存在することの尊さ、そしてその燃えるように煌々と立つ姿を表現したく、画を制作してまいりました。同じ季節が繰り返すことなどないように、この世において、すべてのことは一期一会のうちにあると思っております。私が対峙した存在したものの、生きるという強さや輝き、そして、やがて全て土になっていくという脆さと穏やかさを少しでも絵を通して感じていただければ、この上ない幸せでございます。

〈日頃の制作モチーフやコンセプト〉

私は花、特に鶏頭の花と土、そしてそれを取り巻く世界を非現実世界として肉筆によって表現しております。花の持つ、短くも劇的な変化を遂げる生き物としての時間と、土の持つ、生き物を育みやがて朽ちるその過程を蓄積し繰り返していくような長い時間、その2つの時間の共存を意識して制作をしています。鶏頭の花を描くことにおいては、写生を通して存在そのものについて焦点を当て、強く燃えるようなイメージをもって描いています。

幸山ひかり 略歴

1993年 京都府に生まれる
2015年 美工進展 (高校同窓会グループ展) 京都: 堀川御池ギャラリー
2016年 京都市立芸術大学美術学部日本画専攻 卒業
第34回三菱商事アートゲートプログラム 入選 (同第35回~第38回、第41回)
2016年度三菱商事アート・ゲート・プログラム奨学生 選出
碧い石見の森芸術祭2016 第2回石本正日本画大賞展 出品
2017年 第35回上野の森美術館大賞展 入選 (賞候補) 東京: 上野の森美術館
2018年 第5回続「京都 日本画新展」出品 (賞候補) 京都: 美術館「えき」KYOTO
京都花鳥館賞奨学金2017 優秀賞 京都: 京都花鳥館
京都市立芸術大学作品展 大学院市長賞 受賞
京都市立芸術大学大学院 美術研究科 日本画専攻 卒業
清須市9回はるひ絵画トリエンナーレ 入選 愛知: 清須市はるひ美術館
第27回飛騨高山山龍桜日本画大賞展 入選 岐阜: 高山市民文化会館
改組 新第5回日展 入選 東京: 国立新美術館
上海 Art Fair 2018 AGホールディングズブース 出品
2019年 京都 日本画新展2019 出品 京都: 美術館「えき」KYOTO
日本画展「しらぬみ」(清水、幸山、監物によるグループ展) 京都: GALLERY Ann
京都 日本画新展 in 二条城-100人の画家・嵯峨野線を旅して- 京都: 二条城



「点在する光」180×220cm

[今月の展覧会より]

岩倉 寿展

一のこされた作品たち一

と き／5月11日(土)～5月26日(日) 10:00AM～6:00PM

ところ／ギャラリー鉄斎堂 1・2階 (会期中無休)

京都市東山区新門前通東大路西入ル梅本町262 ☎075-531-6164

この度、岩倉先生の展覧会をするにあたり、奥様をはじめ山本陽光堂様、国公立の美術館のあたたかいご理解のもとに当ギャラリーで最初に展覧会をさせて頂けることを有難くおもっております。

生前、先生とお話をさせていただいた事を自分なりに整理し残された作品の中から2階はエスキースと1階には日展の出品作及び小品を自分勝手に選ばせて頂きました。小品の中には先生が見せたくないものがあるかもしれませんが、この場をかりて謝っております。

新緑のひとつとき、暖かで厳しく自分勝手な仕事をやり抜き通した一人の画家をじっくり味わって頂ければ幸いです。

ギャラリー鉄斎堂 川崎正晴

会期は

前期 5月11日(土)～5月18日(土)

後期 5月19日(日)～5月26日(日) ★1階のみ一部展示替え致します。



土へ



比叡遠望



松の図



鳥と少年



鳥の棚



花菖蒲



午後

ヨルク・シュマイサー遺作展

～肉筆作品を中心に～

と き／5月17日(金)～6月8日(土) 1:00PM～7:00PM

ところ／ギャラリー宮脇 (月曜と5/26(日)休廊)

京都市中京区寺町通二条上ル東側 ☎075-231-2321

精緻、壮麗な銅版画を生涯にわたり創り続けたヨルク・シュマイサー (1942～2012)。生前あまり肉筆作品は発表していなかったが、世界の様々な地を旅した作者は、オーストラリア独特の荒野の岩山風景、アンコールワット遺跡の風化した女神像、水面の光が反射するベニスの建物、氷原という線も尺度も消失した白い光を放つ非現実的オブジェが屹立し漂う南極の光景…など、各地で肉筆画を描いた。その驚くべき描画力と卓越した技術は、肉筆画と版画に大きな違いを感じさせない。それどころか版画においても一枚の版から様々な異なる雰囲気の違いを生み出すことにも積極的であった作者は、一つの図像から得られる微妙な

違いは劇的な変貌に対する柔軟な表現意識を、肉筆と版画の区別なく実践してきたのである。

本展は、稀代の銅版画家ヨルク・シュマイサーによる肉筆作品を展覧する珍しい機会、遺族秘蔵品も特別出品。当画廊でも未発表であったリトグラフやモノタイプなど銅版画以外の作品も紹介する、四年半ぶり二度目の遺作展。

尚、6月2日まで奈良県立美術館で回顧展「ヨルク・シュマイサー終わりなき旅」を開催中。



「アンコールの守護神」(2001)

74.5×56cm

紙に水彩/パステル



「南極の氷」(2004)

57.5×57cm 紙に水彩/色鉛筆



「Mt.バッファローのカテドラル」(1984)

37.5×50cm 紙に木炭

[今月の展覧会より]

太田喜二郎と藤井厚二 日本の光を追い求めた画家と建築家

と き／4月27日(土)～6月23日(日) 10:00AM～7:30PM
ところ／京都文化博物館2階総合展示室「京の至宝と文化」コーナー
京都市中京区三条高倉 ☎075-222-0888

近代京都の洋画家・太田喜二郎と、近代京都の建築家・藤井厚二。本展は、絵画と建築というジャンルの異なる二人について、その交流を通じ紹介することで、日本の近代文化の一側面に光をあてます。

太田喜二郎は東京美術学校（現・東京藝術大学）を卒業後、ベルギーに留学し、明るい光を印象派風の点描で描く技法を身につけました。そして帰国後は、日本の柔らかな光を描く方法を模索しました。一方、藤井厚二は東京帝国大学（現・東京大学）を卒業、竹中工務店に勤務して後、欧米を視察、帰国後は西洋の技術を取り入れながらも、日本の気候風土にあう住宅を追求しました。その究極が、大山崎にある自邸「聴竹居」（重要文化財）です。

京都帝国大学（現・京都大学）建築学科でデッサンを教える講師として招かれた太田は、同じ頃に講師として着任した藤井と知り合います。やがて、太田は自邸の設計を藤井に任せ、また二人は茶事などを通じて交流を深めていきます。本展は、そんな太田と藤井の仕事や、新発見の資料などを踏まえて、絵画と建築をクロスさせた新たな視点から紹介します。



太田喜二郎「樹陰」1911年 京都市美術館蔵

シンポジウム「太田喜二郎と藤井厚二」

と き：6月2日(日) 午後2時～5時半

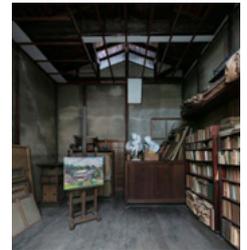
ところ：京都文化博物館別館ホール（定員170名）

（事前申し込み必要）

パネリスト：石田潤一郎氏（武庫川女子大学客員教授／京都工芸繊維大学名誉教授）、中谷至宏氏（京都市美術館）、松隈章氏（竹中工務店）、山田真規子氏（目黒区美術館）、植田彩芳子（当館学芸員）



藤井厚二設計
「聴竹居 居室」



藤井厚二設計
「太田邸新画室（アトリエ）」

京都郊外の農村風景を描いた 太田喜二郎とその周辺

と き／5月11日(土)～6月1日(土) 10:30AM～6:00PM
ところ／星野画廊（毎週月曜日と5/19休廊）
京都市東山区神宮道三条上ル ☎075-771-3670

1883（明治16）年京都市上京区の西陣織業の家に生まれた太田喜二郎は、東京美術学校在学中から留学を目指してフランス語と英語を学んだ。留学先に選んだのはフランスではなく隣国ベルギーのгент。エミール・クラウスら新印象主義を目指す画家たちに囲まれ、太田は点描主義の絵画技法を吸収した。7年の滞欧後1913（大正2）年に帰国。大正博覧会など国内の展覧会で〈赤い日傘〉などの滞欧作品が受賞を重ねた。その後太田は帝展審査員などを歴任したが東京に移り住むことなく、京都郊外の上高野や上賀茂などの農村部に居を構え、明るく柔らかな筆致で人々の生活や京都郊外風景を描き続けた。

没後66年振りの遺作展が建築家藤井厚二との二人展として京都文化博物館で開催中です。星野画廊におきましては、この機会に協賛する展覧会を開催いたします。太田の点描画による滞欧作品をはじめ、近郊農家の風物を描いた作品など14点のほか、太田が出品した光風会や関西美術会の主要画家、及び華畝会の画家たちの優作15点による展観です。

京都国立近代美術館4階のコレクション展示室におきましては所蔵作品による「太田喜二郎」を2019年度第2回コレクション展の一部として開催中（6月1日まで）。こちらの展示にも是非お出かけください。

出品作家：

太田喜二郎、赤松麟作、跡見泰、安藤義茂、伊藤快彦、池田治三郎、鹿子木孟郎、川端弥之助、黒田重太郎、国盛義篤、澤部清五郎、霜鳥之彦、須田国太郎、山田新一



太田喜二郎「賀茂の農家」
1920（大正9）年
49.2×73.7cm



霜鳥之彦「初夏の庭」
1929（大正14）年頃
70.3×70.0cm

令和元年～暮らしの中の逸品展～ 木野工人会 at 鵬休堂

と き／5月31日(金)～6月2日(日) 11:00AM～6:00PM
ところ／アートギャラリー鵬休堂
京都市東山区東山五条上ル西入ル ☎090-1073-8239

木野工人会は2007年に京都民藝協会所属の作り手の有志が集まり結成されたグループです。「木野」という名称は京都民芸資料館（京都市左京区岩倉木野町340）のある岩倉の地、「木野」からとられたものです。現在、工人はガラス絵の疋田正樹、木工の平松源、織物の石原良子、林佑希子、陶磁器の河井一喜、森公男の六名です。

人の営みは多種・多様ですが、それぞれの暮らしの中に、うるおいと確かな充実感をもたらすことに我々の工芸が役立つならば、これほどうれしいことはありません。

初夏の一日、一服の清涼を求めて是非お出かけ下さい。



石原良子（織物）



平松源（木工）



疋田正樹（ガラス絵）



森公男（陶磁器）



河井一喜（陶磁器）



林佑希子（織物）

時宗二祖上人700年御遠忌記念 国宝「一遍聖絵」と時宗の名宝

と き／4月13日(土)～6月9日(日) 9:30AM～6:00PM
ところ／京都国立博物館（5/6以外の月曜日と6/9は休館）
京都市東山区東山七条 ☎075-541-115

踊り念仏で知られる時宗は、宗祖一遍（1239～89）が鎌倉時代に開いた宗派です。一遍は念仏をとなえることで誰もが往生をとげられると説き、全国を行脚（遊行）して、念仏札を配り（賦算）、布教につとめた。この時宗を教団として整備し、大きく発展させたのが二祖の真教（1237～1319）である。2019年に真教の七百年遠忌を迎えるのを記念して、時宗の名宝を一堂に会する展覧会が開催されている。



国宝 一遍聖絵 巻7（東京国立博物館蔵）

本展では、全国各地を遍歴した一遍の生涯を描いた国宝「一遍聖絵」（清浄光寺（遊行寺）蔵）をはじめ、真教の足跡もつづられた「遊行上人縁起絵」、一遍や真教ら歴代祖師の肖像画や肖像彫刻など、時宗の名宝の全貌が紹介されている。なかでも、日本を代表する絵巻であり、中世の歴史を語る上でも重要な作品である「一遍聖絵」については、12巻全巻が公開されている。近年再評価の動きが強まっている異色の日本画家・不染鉄が、京都市立絵画専門学校在学中に「一遍



国宝 一遍聖絵 巻六（この場面は後期展示）
（東京国立博物館蔵）

聖絵」の模写に励み、自身の絵画追求の礎としたことが広く知られるようになった。本展で紹介されている絵巻の中から富士山を描いた場面などにその痕跡を見つけ出すのも一興。（金曜・土曜：夜間開館午後8時まで）



重文 真教上人坐像（蓮台寺蔵）

会場		日曜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
		曜	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
企	カギムラ画廊 中京区河原町四条上ル東入 221-2996	小島悠司など日本画・洋画常設展																															
企	画廊 えんじゅ 東山区三条通古川町東入ル 050-3557-1723	貸画廊受付中																															
企	画廊 きよみず 東山区清水五条坂 525-2062	日本画常設展																															
企	画廊 後素堂 中京区新町丸太町下ル 231-0938	貸画廊受付中																															
企	画廊 たづ 東山区神宮道三条西入ル 771-8225	日本画常設展 (日祝休廊)																															
貸	ぎおんギャラリー八坂 東山区祇園町南側 525-1717	「卓宝 MISA 展」 浦谷美紗					「ニヤングルキャッツ in 京都」 対川みち子・竹原裕子					「京染・柿渋染展」 大石淳子他					「たま & Shippoy シルバーと七宝の アクセサリー2人展」					→6/2											
貸	喜聞堂アートスペース余花庵 中京区寺町通御池上ル 212-9793	書 中川聖久の世界 -時-					屏風絵画常設展					Cross winds フラワーアレンジメント -新たな風-					北沢流能面染 同泉會能面展 -草木国土悉皆成仏-					→6/2											
企	ギャラリー 梧桐 左京区岡崎南所町40 090-7849-6944	貸ギャラリー受付中																															
貸	ギャラリー M 中京区錦薬師高倉西 221-0979	ニースとプロバンスを描く展 (松本祐佳)															パリ、ニース、モナコを描く展 (松本祐佳)																
企	ギャラリー かもがわ 上京区堀川出水西入 432-3558	貸ギャラリー受付中																															
貸	ギャラリー 祇園小舎 東山区四条通繩手東入 551-3828	中浜稔 籾の墨絵 何でもやらにゃ〜展					ハートドヴェールガラスと 水彩画 二人展					同志社大スケッチクラブ OB同好会世代 第6回スケッチ展					飯田トモ子 ガラス and.2					第23回 アトリエ あずま展					→6/2						
貸	ギャラリー 吉象堂 中京区三条柳馬場東 221-3955	青美 春季展										第24回 茨木絵画 教室展																					
貸	ギャラリー Create 洛 中京区丸太町通堺町角 708-7898	高井道夫・進藤博子 二人展 (洋画)					西久松吉雄展 -風景のはじまり- (日本画) (月曜休廊)										吉田眞理子展 (洋画)					福井タマエ展 (水彩画)					→6/2						
企	Gallery G-77 小川通丸太町下ル 090-9419-2326	常設展 (日・月休廊) 14:30~19:00																															
会場		日曜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
		曜	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
企	ギャラリー K 中京区寺町二条下ル西側 255-7518	常設展																															
貸	ギャラリー 恵風 左京区丸太町東大路東入 771-1011	1F 2F 休廊					奥田輝芳展 (平面) (5/13休廊)										下 干映子展 (平面)					田中直子展 (平面)					→6/2						
貸	ギャラリー 佐野 中京区寺町錦薬師西北角 221-2767	水田寛展 (平面) (5/13休廊)										沖谷晃司展 (平面)										Kabi Raj Lama展 (版画)					→6/2						
貸	ギャラリー 佐野 中京区寺町錦薬師西北角 221-2767	第7回 韓流展 (平面)										鞆いたがき展 -鞆のなりたち-					甥と叔母の二人展 (平面)					→6/2											
企	ギャラリー 三条祇園 中京区寺町通御池上ル 221-6401																																
企	ざらりい 思文閣 東山区古門前大和大路東入 761-0001	山上新平展 (写真) (本社ギャラリーにて開催)																															
企	ギャラリー 白川 東山安井東一筋日南 532-2616	ギャラリー白川セレクト5人展-舟越 桂・大平和正 他 (月曜休廊)																															
貸	ギャラリー 翔 左京区北山通下鴨中通東 724-8154	則武千鶴 色鉛筆画展					ハセガワアキコ・西村昌佐子 二人展 (銅版画 他)										油彩三人展 (木村みよ子・内藤吉子・ 吉園伴子)					井村晴美 油彩展 旅と人形					→6/2						
貸	ギャラリー 16 東山区三条通白川橋西入上ル 751-9238	櫻井類個展 「霧の中の霧」 (絵画) (月曜休廊)					石原隆司展 「絵画/彫刻/空間的物体」 (絵画・立体作品)					嶋 春香「洪水の跡と菟集」 平面 (絵画) (月曜休廊)										→6/1											
企	ギャラリー 創 中京区河原町御池上ル 251-0522	日本画・洋画・古書画常設展																															
貸	ギャラリー 象鯨 中京区姉小路柳馬場東 253-0738	常設展 (貸ギャラリー受付中)																															
企	ギャラリー TAJIRO 東山区繩手通新橋下ル 0774-27-1733	「うちの子あの子に出会う展」 パリの約束 (松家利絵) 絵 室画					栗本奈央子日本画展 ← 水墨画教室 絵 室画										小泉広明個展					→6/2											
貸	ギャラリー Little House 下京区室町四条下ル 090-9977-1559	はんどめいど集合!					撮人 -光と影-					万華鏡をめぐる ペルシャ文様と祇園祭					Mizko's Via Marcona					建築家と匠展					→6/2						
企	ギャラリー 鉄齋堂 東山区新門前東山西 531-6164	常設展 (6・9日休廊)										岩倉寿 -のこされた作品たち- (会期中無休・会期中一部展示替えあります。)										28・29・30日休廊											
企	ギャラリー 富小路 下京区富小路小路上ル 090-7095-0576	休廊																															
企	ギャラリー なかむら 中京区姉小路河原町東 231-6632	兼先恵子展 (染色) (月曜休廊)																														→6/9	
貸	ギャラリー 中井 中京区木屋町三条上ル 211-1253	川崎大展					休廊					石塚辰哉展					鞍馬画会					Pas à pas (パサパ) 石原眞理子・高山淑子 高田希子・須田由貴子					→6/2						
企	ギャラリー 白梅園 北区北野上白梅町G3 461-0427	白崎信子 ガラス作品展																															

【短信】京都画廊連合会ニュースの展覧会紹介記事で掲載している作品の画像は、当画廊のホームページ (<http://www.kyoto-art.net/>) では、すべてカラー図版として掲載しています。どうぞお楽しみください。

